

- 1、題目は、一行めの三ばんめか四ばんめのマスから書きましょう。
- 2、学校・学年・組・氏名は二行めに書きましょう。
- 3、文章は三行めから一字きけて書きはじめましょう。
- 4、文章の構想をしっかりと立ててから書きはじめましょう。各段落のはじめはかならず一字きけて書きはじめ、一つの段落が終わったら行を変えましょう。

( ) 月 日 曜日

守るべきもの

岳南中学校二年 小笠 花生

私はその光景を見て絶句した。なぜこんなにも大きな樹があるのか？理解が追いつかなかった。

時は遡ること三年前の梅雨時、天気は曇り時々雨。縄文留学してきて間もない頃。唐突にモツチヨム岳に登ろうと張り切る両親に、まだ早い！と説得した私は、家族五人でヤブスギランドに登ることになった。

中学校

ヤブスギランドの入り口に着くまでに、鹿や猿と車で遭遇した。まるで動物園のふれあい広場みたいだと思った。道路に寝そべる猿が休日のおじさんのような格好をしているのを見て、うちの父と母親と変わらないな、と思った。

目的地の入り口に着き、歩き始めすぐ。あんなに張り切っていた両親が百五分コースからり三十分コースにしようと言いだした。元々体力の使う習い事をしていたのもあり、

No. 1

- 5、読みやすいように、と。とをしつかりつけましょう。
- 6、人が話したところは、「」のなかに入れましょう。「」は、それぞれ一字にかぞえてマスのなかに入れましょう。
- 7、漢字やかなづかいに気をつけ、特に「は」と「わ」、「へ」と「え」、「お」と「を」をしつかり使いわけましょう。
- 8、書きおわったら、何回も読みなおし、まちがいをなおして、たりないことはおきない、むだなことはけずりましょう。



- 1、題目は、一行めの三ばんめか四ばんめのマスから書きましょう。
- 2、学校・学年・組・氏名は二行めに書きましょう。
- 3、文章は三行めから一字さけて書きはじめましょう。
- 4、文章の構想をしっかりと立ててから書きはじめましょう。各段落のはじめはかならず一字さけて書きはじめ、一つの段落が終わったら行を変えましょう。

( ) 月 日 曜日

本来は一番長いコースが良かった。だが、親にギツクリ勝たなければならないので、淡々三十分コースを歩くことにした。三十分コースの景色なんて、大したことないだろう、と思うっていた。だが歩いていく中で分かった。とても綺麗だった。

まず、眼に入ったのはツケだ。先ほどまで降っていたのか、雨がツケに傘となっていた。下がっている。その傘ひとつひとつが宝石と化していた。太陽や星とは別の輝き。重さに

中学校

耐えきれなくな。たツケが宝石を零す。だがそれは地面に触れることなく、別のツケの上に乗る。何時間でも見ていられる。

時折木々の間から顔を出す不機嫌そうな曇り空は、私の目に留まる前に葉が覆い隠してくれる。おかげでいはいは快晴の青空だ。

目を閉じる。小さな川のせせらぎが耳を満たす。鹿の音が遠くから聞こえる。土の香りがふんわりと肌を包み、森が風と一緒にサワサワと歌っている。美しい旋律。思わず笑み

No. 2

- 5、読みやすいように、と。とをしつかりつけましょう。と。とは、それぞれ一字にかぞえて、マスのなかの右上のほうにつけましょう。
- 6、人が話したところは、「」のなかに入れましょう。「」は、それぞれ一字にかぞえてマスのなかに入れましょう。
- 7、漢字やかなづかいに気をつけ、特に「は」と「わ」、「へ」と「え」、「お」と「を」を「とを」しつかり使わきましょう。
- 8、書きおわったら、何回も読みなおし、まちがいをなおして、たりないことばをおぎない、むだなことばをけずりましょう。



- 1、題目は、一行めの三ばんめか四ばんめのマスから書きましょう。
- 2、学校・学年・組・氏名は二行めに書きましょう。
- 3、文章は三行めから一字さげて書きはじめましょう。
- 4、文章の構想をしっかりと立ててから書きはじめましょう。各段落のはじめはかならず一字さげて書きはじめ、一つの段落が終わったら行を変えましょう。

( ) 月 日 曜日

がこぼれる。歩けば歩くほど深く、見れば見るほど濃く染まっ。ちやく。ちう思っ。た。だが歩いているうちに気が付いてしまった。私はまだ本当の「屋久島」を見ていることを。少し道が開いて、辺りの木が少なくなっ。てきた。木で作られた階段が足場となっ。てくれ、それを慎重に登っ。てゆく。ふわりと風が吹いて、一度に宝石が雫れ落ちた。

私は、その光景を見て絶句した。理解が追いつけなかつた。しばらく考え、

中学校

ようやく目の当たりにした世界に理解が追いついてきた。まるでそこは異世界だ。た。た。そこには、今までに見たこともない様な見上げるほどに大きな樹がそびえた。ていた。て。パンは見えなかつた。この樹はき。と私たちを見下ろしている、ちう思っ。た。その樹は「千年杉」と言っ。た。その名の通り推定樹齡が長すぎた。この名前が付けられたらしい。この杉は、縄文時代から生きているというところか。驚愕だ。有り得ないと思っ。た。だが、

No. 9

- 5、読みやすいように、「と」をしっかりとつけましょう。「と」は、それぞれ一字にかぞえて、マスのなかの右上のほうにつけましょう。
- 6、人が話したところは、「」のなかに入れてください。「は」は、それぞれ一字にかぞえてマスのなかに入れてください。
- 7、漢字やかなづかいに気をつけ、特に「は」と「わ」、「へ」と「え」、「お」と「を」、しっかりと使いわけましょう。
- 8、書きおわったら、何回も読みなおし、まちがいをなおして、たりないことばをおぎない、むだなことばをけずりましょう。



- 1、題目は、一行めの三ばんめか四ばんめのマスから書きましょう。
- 2、学校・学年・組・氏名は二行めに書きましょう。
- 3、文章は三行めから一字さげて書きはじめましょう。
- 4、文章の構想をしっかりと立ててから書きはじめましょう。各段落のはじめはかならず一字さげて書きはじめ、一つの段落がおわったら行を変えましょう。

（ ） 月 日 曜日

事実だった。

少しずつ、ちよつとずつゆつくりゆつくりと築き上げてきた、大切な室。塵も積もれば山となる、何と言うけれど。これが最大の例だ。大雨の中、強風の中、猛烈な暑さの中を耐えて、耐えて今も頑張って生きている。アすっげえー  
思わず口から漏れ出る。

全然。もう立派な年寄りだー

ザワザワと千年柳の葉や幹、コケが謳う。

中学校

千年柳はそう言った気がした。胸がいっぱいになつた。感情がこみ上げて、ならない。どうしようもないこの感情は、雨上がりの青空に吸い込まれて消えた。

屋久島は、濃い。全ての物が、全ての生き、物が。人、食べ物、猿や鹿、海、山、空。全部が綺麗で、全部が濃くて、全部が美しい。でも、いつでも目の前から消えてなくなつてしまふような儚さ。私たちはこの素晴らしい者たちを守りなくてはならない。そう思った。

No. 4

- 5、読みやすいように、と。とをしつかりつけましょう。と。とは、それぞれ一字にかぞえて、マスのなかの右上のほうにつけましょう。
- 6、人が話したところは、「」のなかに入れましょう。「」は、それぞれ一字にかぞえてマスのなかに入れましょう。
- 7、漢字やかなづかいに気をつけ、特に「は」と「わ」、「へ」と「え」、「お」と「を」をしつかり使いわけましょう。
- 8、書きおわったら、何回も読みなおし、まちがいをなおして、たりないことはおきない、むだなことはをけずりましょう。

(不許複製)

